

2018年度学校評価結果と2019年度重点目標

2019年4月

恵泉幼稚園

1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935年（昭和10年）に設立した幼稚園です。幼いときに、自分が愛され、守られていることを感じる事ができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに、育ち合う園であり続けます。

【教育目標】

- ・意欲のある子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・感性豊かな子ども
- ・感謝できる子ども を目指します。

【教育方針】

- ・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
- ・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
- ・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
- ・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

2. 2018年度の振り返りと2019年度重点的に取り組む目標・計画

【2018年度、重点的に取り組む目標・計画】

子どもと共に育つ教師

- ・子どもたちは、教師を通して様々なことを吸収し、学んでいく。子どもにとってふさわしい教師の役割を考え、理解し、自覚する。
- ・「教師は、子どもと共に園生活を創り、楽しみ、共に育ち合う存在である」
そのための学びを深める。

【2019年度、重点的に取り組む目標・計画】

主題『新しい教育観に求められる視点を理解する』

—入園から卒園までの3年間の成長（発達段階）を見据えて取り組む—

- ・人として育っていく時期に、子どもが主体となった遊びを通して育つ力に着目する。
「身体を使う力」「人と関わる力」「考える力」

【2018年度、重点的に取り組む目標・計画】を振り返りました。

2018年度は、「幼稚園教育の質」を考える取り組みの一つとして、重点目標のなかで教師が果たす役割に視点を置き、学びを深めていくことに目標を持ちました。

：重点目標「子どもと共に育つ教師」の振り返り

子どもの吸収力には目を見張るものがあります。教師は、その吸収力に負けないように、自己課題を見出し、課題の達成度や反省点を振り返り、改善に向けて学びを深める努力をしてきました。教師一人ひとりの努力は、子どもの健全な成長を願い、成長に関わり続ける日々の保育に良い影響を与えました。ともすると教育が、教師が伝授・伝達者で子どもはそれを受ける者という見方や、活動内容が以前からしていることを同じように繰り返し実施しているという現状は否めません。

このような現状を考えると、幼稚園教育の実践が目の前の子ども一人ひとりの成長や育ち、学びに繋がる機会を保障してあげられているか、問い直すことが大切になります。

2018年度は前述の視点を踏まえて、「子どもと共に育つ教師」を目標にして取り組み、現状に甘んじることなく努力を重ねてきた結果、子どもと教師は影響し合い、紡ぎ合いながら「共に育ち合う存在」へと導かれていったことを実感しました。

そのなかで、教師が子どもの心の痛みや喜びを自分のことのようにキャッチし、つまずいたときには「大丈夫」と不安を和らげ、安心して色々な経験に向えるように支える教師の『小さな配慮』と、その支えを受けた子どもたちの『小さな成功・成長』が相まって、初めて「育ち合う存在」になれるということ、そして、このような「育ち合い」が教育の真の姿に通じるものであることを、重点目標「子どもと共に育つ教師」の振り返りを通して得ることができた学びになりました。

：今後の課題として取り組んでいくこと

子どもと教師のコミュニケーションやおうちの方と教師のコミュニケーションの根幹にあるものは『相手への共感』であり、相手を『想像する心』です。教師のコミュニケーション力については十分に発揮されていないという点では課題が残ります。担任が、子どもとおうちの方にとって『一番話したい相手』であることが信頼関係を築いていくと考えますので、その形成に努めていきます。

：まとめ

重点目標「共に育ち合う」ためには何が必要であるか考えてきた実践と振り返りを通して、教師が子どもたちを励ますばかりでなく、子どもたちが注いでくれる笑顔、優しさ、愛くるしさ、快活さという『大人に注がれるまなざし』に教師がどれほど励まされ、救われてきたか、感動が湧き上がります。

今後も一人ひとりのありのままを見つめ、手間暇を掛けて育てていく実践と振り返りは、幼稚園教育の『質』に関わる取り組みとして継続していきます。

【2019年度、重点的に取り組む目標・計画】の設定について

「遊びを中心とした生活のなかで、子どもたちの健やかな心身の成長は促されていく」という幼児教育の基本的理念は、「遊びの重要性」を取り上げるなどこれまで幾度となく示し、その充実を目指し重点目標にも掲げてきました。

2018年度の幼稚園教育要領の改定（10年ごと）では、今後の社会が新しく変化していくなかで、21世紀を生きる大人として必要な育ちは、夢中になって遊び込んだ子どもたちの心の土台に芽生えてくる『非認知的スキル』であることが注目されています。

2018年度の重点的に取り組む目標の設定に於いても、この改訂に意識を向け、改訂で変わらない視点「幼児教育は環境を通して行う教育である」ということに重点を置き、教師が子どもの成長・発達を促す人的環境であることの重要性と自覚を再確認する一年になりました。

：重点目標

2018年度、「幼稚園教育の基本」に添った取り組みを行ってきましたので、2019年度の重点目標もその延長線上におき、教育のあり方の「一貫性」を重要視しました。

：重点目標主題『新しい教育観に求められる視点を理解する』

新しい教育観とは、「新・幼稚園教育要領」が示す子どもたちの将来を見据えた幼稚園教育の根幹を指します。新しい教育観のポイントは、幼児教育に期待される幼児期の教育が、その後続く学校教育に接続し、さらに社会生活まで繋がっていくという「一貫した学び」を提唱しているところです。各教育現場が学びの過程で共有し、育てていく「人としての資質」つまり、意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性・自立心等々の数値では計れない『非認知的スキル』が「人に必要な資質」として重要性が増しています。

上記の点を視野に入れながら「子どもたちは、お互いの人格を尊重し、考えることを通して理性を保ち、自分の人生を選んでいく自由な意思を持つ存在である」と、子どもの存在そのものかけがえのなさを大事にしていくことは変わりません。21世紀の社会を担う子どもたちを「人として育てていく」スタートが幼稚園教育であることをおうちの方とも、共有していきたいと思えます。

：重点目標『人として育てていく時期に、子どもが主体となった遊びを通して育つ力に着目する』

補足：子どもたちの主体性、自主性は「これで遊びなさい」と指示されて用意された遊びの環境では育ちにくく、むしろ、自主的な遊びで育つであろう力を奪いかねません。

子どもが主体的に、自主的に遊んでいるからこそ芽生える将来に大切な力・資質を大きく3つに分けました。「身体を使う力」「人と関わる力」「考える力」の区分の中には、それぞれ細かい資質が含まれています。ここで誤解のないように言及しておきます。力・資質という表記になっていますが、能力の到達目標ではありません。到達点と捉えると教師からの強制力が出か

ねません。遊びのなかの様々な関係性から生み出される「学び」を意味します。力は相互に混ざり合い、子どもの主体的な遊びを通して、発達に必要な経験を積み重ねながら「学ぶ」ことを大前提にしています。教師は3年間を通して、一人ひとりの成長の段階を見極めつつ、育ち合うパートナーとして成長を楽しんでいきます。

遊びは学びという幼稚園教育の基本は、新しい教育観に於いても変わらないことです。

【まとめ】

恵泉幼稚園の教育方針は、「意欲、思いやり、豊かな感性、感謝」と目に見えない心の育ちを重視しています。それは新しい教育観が求める『非認知的スキル』に相当し、恵泉幼稚園はどのように時代が変化しようとも、今まで通り教育理念に基づいた「一人ひとりを大切にした教育」を目指していくことができます。

2019年度に向けて教師は、幼稚園生活を通して成長していく子どもたちの姿を見つける目と感性、子ども理解を養う努力が必要になります。「一期一会」、瞬間、瞬間の子どもとの関わりを大事にすることで一人ひとりの印象を心と脳裏に焼き付けることができます。それはコミュニケーションにも役立つ教師の学びであり、努力目標にしていきます。

3. 学校評価結果の取組み

評 価 項 目	取 組 み 状 況
「おうちの方の学校評価」を実施。 評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。	意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。その一部は2月開催の2018年度PTA総会で報告。改めて「おうちの方の学校評価」の報告書は、在園児の方には3月、新入園の方には4月に配付します。
教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。	「教員自己評価」をもとに、子どもとの関わり、おうちの方との連携、教育の原点を見つめ直し、良い点は伸ばし、不十分な点は改め、新年度、向上していけるように努めます。